

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる「NGU 教養スタンダード科目」を開設しています。「NGU 教養スタンダード科目」は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

「キリスト教」に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりとしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

「人間理解」、「社会理解」、「自然理解」、「歴史文化理解」、「環境理解」、「身体理解」、「地域理解」

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ「人間理解」、社会のしくみを考える「社会理解」、自然をさまざまな角度からながめる「自然理解」、人間や世界の文化や歴史を学ぶ「歴史文化理解」、地球環境や生態系について考察する「環境理解」、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ「身体理解」、まちづくりを多様な視点から考える「地域理解」の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実が、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

科目表の見方

各学部学科の科目表（P70以降）は以下の構成であらわしています。

- 授業科目名：その科目の名称をあらわしています。
- 単位数：その科目の単位数をあらわしています。
「1」と表記されていたら1単位科目であり、「2」と表記されていたら2単位科目となります。
- 配当年次：その科目が受講できる年次をあらわしています。
「2」と表記されていたら、2年生以上の学生が履修することができます。
- ナンバリング：その科目の科目ナンバーをあらわしています。
- 必修、選択：その科目が必修科目であるのか、選択科目であるのかをあらわしています。
必修の欄に単位数が記載されていたら、その科目は必修科目となります。
- 選択必修科目：この欄に選択必修科目について記載をしています。
- 卒業要件：その学部学科の卒業要件をあらわしています。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修について

文部科学省は現在、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は Center of Community の略で、地域再生の核となる大学の意味です。

名古屋学院大学の取り組みの概要

本学の COC 事業はキャンパスの立地する名古屋市および瀬戸市を対象とし、両市が抱える地域の課題について、「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」のまちづくりを通じて解決をめざすものです。

「地域商業まちづくり」・・・商店街活性化などを通じて地域経済効果の増大をめざします。
「歴史観光まちづくり」・・・歴史の掘起しや地域資源の発掘により歴史観光を推進します。
「減災福祉まちづくり」・・・災害に強いひとづくり・まちづくりをめざします。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内での学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります。

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」	→			
② 課題解決型授業（PBL）	→			
③ 地域志向型科目	→			
④ 教育イベント「地域フォーラム」			→	

- ① 全学生が参加する 1 年生の教育イベントとして、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「まちづくり提言コンペ」を実施します。
- ② 課題解決型学習（PBL）として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 全学部で、地域を学習対象とした地域志向型科目を充実していきます。
- ④ 全学生が参加する 3・4 年の教育イベントとして、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「地域フォーラム」を実施します。

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

COC+事業と2018年度のプログラム

「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を踏まえ、地域と大学の連携をより深く進め、さらに地域での就業につなげるプログラムがCOC+（プラス）事業です。

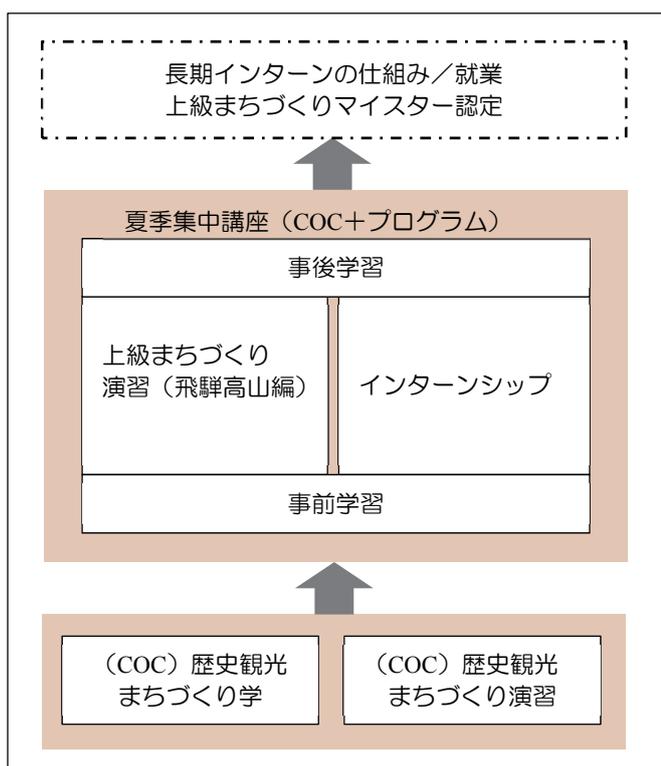
2018年度COC+プログラム

COC+のプログラムでは、大学COC事業で培った知識や経験を前段として、地域とともに将来の地域づくりを担う人材（上級まちづくりマイスター）を育成します。

2018年度は、名古屋学院大学がCOC事業で地域づくりの題材とする「歴史観光」分野で開講します。古くから観光地域づくりで先進的な岐阜県高山市における観光地域づくり人材育成プログラムです。

COC+のプログラムは、COC事業の「歴史観光まちづくり学」「歴史観光まちづくり演習」科目の単位を修得した学生または履修している学生が受講できます。名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスの両方の学生が参加可能です。

高山市におけるCOC+プログラム「上級まちづくり演習」「インターンシップ」の流れと特徴



《プログラムの特徴》

- 将来的に観光産業をめざすなら、日本有数の観光地で国内外からも注目の高い高山市で、観光産業にかかわる実務者とともに実践的な演習を受けられます。
- 将来的にサービス産業をめざす学生にとって、単なるアルバイト目線ではなく、サービス産業従事者の視点をもつチャンスです。観光地ならではの宿泊産業の体験をとおして、サービス業におけるサービスとは何か、ホスピタリティとは何かを考え、表現するスキルが身につきます。
- 高山市には観光産業をはじめ、多くの分野の企業があります。飛騨高山や下呂などの出身の学生にとっては、自分の地域をよりよく知り、魅力を発見する機会になります。

マイスター認定制度

初級まちづくりマイスター

COCカリキュラムで開講中の「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」の授業では、「まちづくり学」「まちづくり演習」の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

COC事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

スポーツ健康学部 スポーツ健康学科

教育目標（学則第3条の2より）

スポーツ健康学科は、幼児期から高齢者までを対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、実践できる人材の養成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

スポーツ健康学科に所属する学生は、卒業後に多様な職域において健康維持・増進、疾病予防、生涯スポーツ、スポーツ健康教育などを推進することが期待されます。学部および学科のカリキュラムを履修、学修することをとおして、以下の能力が獲得できます。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生にはスポーツ健康学部から学士（スポーツ健康）の学位が授与されます。

知識・技能

- 1) 人体の構造と機能や健康に関する基本的知識を理解し、その概要を説明することができる。
- 2) 健康や体力の維持向上に対する運動の効果について理解し、その機序を説明することができる。
- 3) 学校、企業、地域などにおけるスポーツ振興や健康増進活動を理解し、その概要を説明できる。
- 4) スポーツや健康に関する現代的課題を理解し、その概要を説明することができる。
- 5) 主要な運動種目の基礎的スキルを発揮することができる。
- 6) 主要な運動種目の指導法の基本を実践することができる。

思考力・判断力・表現力

- 1) 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションをおこなうことができる。
- 2) 社会におけるスポーツや健康に関する課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。
- 3) 運動や健康に関する教育・指導に関して、実施の対象や諸条件に合わせて適宜企画し、実践の場面で臨機応変に改変し対応することができる。

主体性・多様性・協働性

- 1) スポーツや健康に関する情報を積極的かつ広範に求める態度を身につけている。
- 2) 課題解決に対して常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。
- 3) 教育・指導の場面においては参加者（受講者など）の立場を考慮することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシーの能力の獲得を目的として、スポーツ健康学科では、以下のカリキュラムを提供しています。スポーツ健康学科のカリキュラムは、《NGU 教養スタンダード科目》、《学部共通科目》、《学科基礎科目》、そして《学科専門科目》によって構成されています。カリキュラムと《専門科目》の特徴は以下のとおりです。

教育内容

1) カリキュラムは、成熟した市民としての基礎的素養を修得する《NGU 教養スタンダード科目》、スポーツ健康学部の2学科に共通して必要な知識・技能を修得する《学部共通科目》を設置しています。その上に学科に特化した《学科基礎科目》と《学科専門科目》を設定しています。

2) 《学部共通科目》においては、健康やスポーツに関する基礎的広範な科目を配置しています。

3) 《学科専門科目》においては、〈スポーツ実技科目〉、〈スポーツ科学科目〉、〈健康科学科目〉、そして〈演習科目〉を配置しています。

〈スポーツ実技科目〉は、基本的なスポーツ種目についての深い理解と、各種目の専門的技能の習得をねらいとしています。

〈スポーツ科学科目〉は、スポーツに関連した学問領域についての専門的知識の修得をねらいとしています。

〈健康科学科目〉は、健康に関係した主な科学的領域に関する基本的知識の修得をねらいとしています。

〈演習科目〉は4年間を通じたゼミナール科目と、教職に就くための資質・能力の総仕上げをする「教職実践演習」を配置しています。

教育方法

1) 多人数講義においても ICT を活用した情報提供ツールを積極的に活用し、知的興味・関心を醸成します。

2) 講義科目においては、小テストや面接を通して受講生の学習状況や理解度の把握に努めます。

3) 演習科目については、担当教員が学生相互の議論を誘導し、集団討議や成果発表を行います。

4) 実習科目においては、本学及び地域の教育施設等において、学内で習得した知識や技能を更に確かなものにすることや、児童生徒、社会人更に中高齢者等の健康増進活動への関与もねらいとしています。

学修成果の評価

1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験等による総合評価（100点満点）により行われます。

2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目において必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。

3) 学修の成果として GPA の他、卒業論文や論文等で達成度を評価します。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

スポーツ健康学科では、健康科学やスポーツ科学に関する広範な知見を学び、スポーツの実践力の向上への意欲はもとより、スポーツや体育の指導者に必要な知識、技術および能力の修得について強い関心をもつ学生を優先して迎え入れています。具体的には卒業後の進路として、中学や高校の保健体育教師、スポーツクラブなどの指導者、その他の職域あるいは地域において積極的にスポーツ活動の振興や健康行動獲得の推進に貢献する人物像を意識して欲しいと考えています。

1) 学力試験

スポーツ科学や健康科学に興味を抱き、一定水準以上の学力を有する志願者を求めます。

2) 推薦試験

本学科の学生としてふさわしい人物であるとして、在籍または出身高校が推薦する者で、本学科においても適格であると判定した志願者を求めます。その中には指定するスポーツ種目において高い実績を有する志願者も含まれます。

3) AO 試験

スポーツ科学や健康科学の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力を有した志願者を求めます。

4) その他の試験

スポーツ科学や健康科学に興味を抱き、一定水準以上の学力を有する外国人留学生並びに海外帰国生徒を求めます。学問

分野の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力等を評価します。

カリキュラムの概要

《学部共通科目》では「健康科学概論」ならびに「スポーツ科学概論」を始め、基礎的な内容を扱う講義とスポーツ実技科目が配置されています。

《学科専門科目》の〈スポーツ実技科目〉としては、学校体育で扱われる主要な種目（内容）を中心に、それらに関する知識を学ぶと同時に、基礎的な技術や指導方法を身につけます。

〈スポーツ科学科目〉では、「スポーツトレーニング論」や「体カトレーニング論」を始め、スポーツに関する自然科学ならびに人文社会科学分野の科目が配置されています。

〈健康科学科目〉としては、「スポーツ薬理学」や「保健統計」を始め、健康対策や疾病予防などに関する科目が配置されています。

〈演習科目〉としては「専門演習」（2年次）、「研究演習」（3年次）および「卒業研究」（4年次）が置かれています。これらに加えて1年次に《NGU 教養スタンダード科目》として開設される「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」を連携させて、4年間をとおしての一貫した演習指導体制を準備しています。

なお「教職実践演習」は教育実習と一体化して展開される科目で、教職課程に必要な特別なものとして置かれています。

カリキュラム上の特色

学部開設の多くの科目が選択科目で、必要に応じて履修する体制となっています。必修は《学部共通科目》が5科目、《学科基礎科目》の「生理・解剖学」、《学科専門科目》の「スポーツトレーニング論」と「健康運動教育論」です。

選択科目をどのように選ぶかについては、自分の興味関心と将来の職域（資格取得を含めて）を考慮する必要があります。

本学科において、保健体育（中高）の教員免許を取得することを目的とした場合には、教職必修科目を確実に選択することが必要です。履修モデルを参考にして、詳細は「教職課程ハンドブック」で確認してください。なお、教員免許は取得することが主目的ではなく、教職に就くことが最終目的ですので、関連する科目を積極的に履修することが大切です。

また日本体育協会、健康・体力作り財団などが認定する資格の取得を希望する場合は、それらに必要な科目を修得する必要があります。このことも履修モデルを参考に、適切な科目を選択してください。

演習科目について

演習科目とは

スポーツ健康学科では、1年次に「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」、2年次に「専門演習」、3年次に「研究演習」さらに4年次に「卒業研究」を配置することにより、4年間一貫した少人数でのゼミナール形式の演習をおこないます。

みなさんは、学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上に努めてください。

また、4年間一貫のゼミナール教育で、積極的な人間的交流をはかることにより、幅広い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションのパイプを築いてください。

ゼミナールは4年間の大学生活の中核であり、学修、研究、指導教員やゼミ生間の交流をとおして大学での学修の集大成となり、将来の人生への基盤となるものです。

基礎セミナーおよび基礎セミナーⅡ

1年次配当の「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」は、導入および基礎教育をフォローするための科目です。2・3

年次においての専門研究に取り組むための基礎を築きます。

- ① スポーツや健康に関する文章を読み、その内容を要約、紹介する。
- ② スポーツや健康に関する問題を提起し、討論する。
- ③ スポーツや健康に関する情報を収集し、紹介する。
- ④ 図書検索や、インターネットを利用した検索を学修する。

①から④の方法をとって、健康に関する知識を高めながら、読解力の育成や文章を要約しまとめる能力の向上をはかります。

専門演習

2年次配当の「専門演習」では、興味のあるスポーツや健康に関するテーマを基本に、指導教員のもとで、より専門的な学修をおこないます。

- ① スポーツや健康に関する図書や文献を読み、その内容について紹介、討論をおこなう。
- ② スポーツや健康に関する英語の文章を読み、報告、討論をおこなう。
- ③ スポーツや健康に関するテーマの中で、関心のある事象を調べ、報告する。
- ④ レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

研究演習

3年次配当の「研究演習」では、スポーツや健康に関する多くの課題の中から、卒業研究テーマを模索しながら自らの関心を絞り込み、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。

- ① 国内および海外で刊行された専門の文献や著書を読み、その論点の要旨を理解する。
- ② 専門の文献や著書の読解をとって、その論点を理解し、問題点を探る。
- ③ 関心のある事象の問題点を整理し、その解決方法を探る。
- ④ 関心のあるテーマを絞り、研究課題を策定、プレゼンテーションをおこなう。
- ⑤ プレゼンテーションおよびその討論を基礎にして研究報告書（4,000字以上）の作成をおこなう。

卒業研究をおこなうための基本的研究への取り組み姿勢を養いながら、研究の方法論を身につけてください。

なお、「研究演習」の登録は前年度の秋学期から開始され、選考がおこなわれます。自分の希望する教員のゼミでどのようなことがおこなわれているかを演習概要で確認してください。そして、オフィスアワーを利用するなどしてその教員を訪ね、面談の上で決定すると良いでしょう。

卒業研究

「卒業研究」は、「研究演習」の指導教員のもとで作成した「研究報告書」をもとに、専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文（10,000字以上）にまとめます。

演習科目の履修にあたって

以下の場合には「研究演習」の履修ができませんので、注意してください。

- 1) 2年次の終了時点で総修得単位数が48単位に満たない者
- 2) 「基礎セミナー」を修得していない者

また原則として、「研究演習」を修得していない者は、「卒業研究」を履修できません。

履修モデル

スポーツ健康学科 履修モデル（教員免許、日体協関連資格、健康事業関連資格等の取得には別途必要科目の履修が必要です）

科目区分	必修	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 数計	卒業 要件
		春学期	単位数	秋学期	単位数	春学期	単位数	秋学期	単位数	春学期	単位数	秋学期	単位数	春学期	単位数	秋学期	単位数		
N G U 教員 スクラウド	必修	キリスト教概説	2	キリスト教概説	2													16	16
	選択	基礎セミナー キャリアデザイン1a	2	基礎英語2 英会話2	1														
学 部 共 通 科 目	必修	日本語表現 基礎英語1 英会話1 情報処理基礎	2 1 1 2	基礎セミナーⅡ	2	生物学	2	地球科学概論	2	キャリアデザイン3a	2	キャリアデザイン3b	2						
	選択	2級-1初級A 心理学概論 陶芸編	1 2 2	2級-1初級B 宗教学 物理学 キャリアデザイン1b	1 2 2 2													22	18
学 部 基 礎 科 目	必修	健康科学概論 医学一般（概論）	2 2	スポーツ科学概論 スポーツ原理	2 2	スポーツ生理学	2											10	10
	選択			栄養学概論	2	スポーツ社会学 スポーツ実技13（ウォーキング）	2 1	健康心理学 健康レクリエーション論	2 2	スポーツ実技14（エアロビクスダンス）	1	スポーツ実技15（DJ/イェゴウ） スポーツ実技11（JH+）	1 1						12
学 科 基 礎 科 目	必修					生理・解剖学	2											2	2
	選択					体育・スポーツ経営論	2	スポーツ指導論	2	バイオメカニクス 学校保健1（小児保健、精神保健含む）（2年次必修）	2 2	体育発達とスポーツ 地域スポーツ論 生涯スポーツ論	2 2 2					14	10
学 科 基 礎 科 目	必修	スポーツ実技8（Jカ）	1	スポーツ実技1（※つくり運動） スポーツ実技7（Jカ）	1 1	Jカ1・Jカ2・Jカ3 スポーツ実技16（Fカ）	1 1			アダブテッドスポーツ スポーツ実技17（Jカ）	1 1	スポーツ実技18（Gカ）	1						
	選択																		
学 科 基 礎 科 目	必修					スポーツトレーニング論	2												
	選択					コーチング学 スポーツコンディショニング論	2 2	測定評価 体カトレーニング論 体育・スポーツ政策論	2 2 2	スポーツ競技戦略情報論 スポーツ指導法1 スポーツ実 スポーツ実務学	2 2 2 2								42
学 科 基 礎 科 目	必修					健康運動教育論	2												
	選択					教育現場の理論と実務 健康心理学 医学一般（各論）	1 2 2	健康管理論 健康フィールドワーク	2 1	予防医学（2年次必修） 健康フィールドワーク	2 1	スポーツ実務学 生涯発達心理学	2 2						
演習	必修					専門演習	2			研究演習	1	研究演習	1	卒業研究	1	卒業研究	1	6	6
自由選択																		0	22
単位数計			22		21		24		18		21		16		1		1	124	124

卒業要件

卒業要件単位の修得

スポーツ健康学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

科目大区分	科目小区分	卒業要件	
		必修	選択
NGU教養 スタンダード科目	キリスト教	4単位	
	自己理解と自己開発	4単位	4単位以上
	社会的教養		14単位以上
	言語とコミュニケーション	6単位	
	情報理解	2単位	
	教職教養 ^{※1}		
学部共通科目		10単位	10単位以上
学科基礎科目		2単位	10単位以上
学科専門科目	スポーツ実技科目		6単位以上
	スポーツ科学科目	2単位	10単位以上
	健康科学科目	2単位	10単位以上
	演習科目	6単位	
自由選択科目(フリーゾーン) ^{※2}			22単位以上
卒業要件単位数合計		124単位以上	

※1 教職課程者のみ履修可。8単位まで社会的教養の単位とすることができる。

※2 NGU教養スタンダード科目、学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目の領域から22単位以上を取得すること。

各科目区分（領域）の卒業要件単位数を超える単位は「自由選択」単位としてカウントする。
また、他学科科目、オープン科目についても同様の扱いとする。

スポーツ健康学科 NGU教養スタンダード科目

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
キリスト教					
キリスト教概説	2		1	AV1101	
キリスト教教学	2		1	AV1102	
自己理解と自己開発					
基礎セミナー	2		1	AW1101	
基礎セミナーⅡ		2	1	AW1305	
キャリアデザイン1a	2		1	AW1102	
キャリアデザイン1b		2	1	AW1302	
キャリアデザイン2a		2	2	AW2301	
キャリアデザイン2b		2	2	AW2302	
キャリアデザイン3a		2	3	AW3301	
キャリアデザイン3b		2	3	AW3302	
能力開発1		2	1	AW1601	
能力開発2		2	1	AW1602	
能力開発3		2	1	AW1603	
ボランティア学		2	1	AW1303	
ボランティア演習		2	1	AW1304	
インターンシップ		2	1	AW1306	
社会的教養					
人間理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	心身関係論		2	1	AX1303
	心理学概論		2	1	AX1304
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1305
	臨床心理学		2	1	AX1306
	倫理学		2	1	AX1307
社会理解	社会学入門		2	1	AX1308
	宗教社会学		2	1	AX1309
	日本国憲法		2	1	AX1310
	現代社会と法律		2	1	AX1311
	暮らしと法律		2	1	AX1312
	現代社会と経済		2	1	AX1313
	会計入門		2	1	AX1314
現代社会と福祉		2	1	AX1315	
自然理解	数学		2	1	AX1316
	実用統計学		2	1	AX1317
	化学		2	1	AX1318
	生物学		2	1	AX1319
	地球科学概論		2	1	AX1320
	地球物理学概論		2	1	AX1321
	人類学		2	1	AX1322
	物理学		2	1	AX1323
	科学史		2	1	AX1324
生命倫理		2	1	AX1325	

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
歴史文化理解	日本史		2	1	AX1326
	日本文化史		2	1	AX1327
	文化人類学入門		2	1	AX1328
	陶芸論		2	1	AX1329
	陶芸演習		2	1	AX1330
環境理解	環境科学		2	1	AX1331
	生態学		2	1	AX1332
	地域生態論		2	1	AX1333
	地球環境学		2	1	AX1334
身体理解	スポーツ初級A		1	1	AX1335
	スポーツ初級B		1	1	AX1336
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
	スポーツ上級A		1	3	AX3301
	スポーツ上級B		1	3	AX3302
地域理解	地域商業まちづくり学		2	1	AX1337
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1338
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1339
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1340
	歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1341
	減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1342
上級まちづくり演習		2	2	AX2304	
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2		1	AJ1101
日本語表現上級			2	1	AJ1301
基礎英語1		1		1	AJ1102
基礎英語2		1		1	AJ1103
英会話1		1		1	AJ1104
英会話2		1		1	AJ1105
実用英語演習1			1	2	AJ2301
実用英語演習2			1	2	AJ2302
情報英語演習1			1	2	AJ2303
情報英語演習2			1	2	AJ2304
手話			1	1	AJ1302
手話上級			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2		1	AZ1101
教職教養					
教職論			2	1	BQ1401
教育原理			2	1	BQ1402
教育心理学概論1			2	1	BQ1403
教育心理学概論2			2	1	BQ1404
教育制度論			2	1	BQ1405
特別活動論			2	2	BQ2401
教育の方法と技術			2	2	BQ2402
道德教育論			2	2	BQ2403
生徒・進路指導論			2	2	BQ2404
教育相談			2	2	BQ2405

スポーツ健康学科 専門科目

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
学部共通科目	健康科学概論	2		1	SH1101
	スポーツ科学概論	2		1	SH1102
	スポーツ原理	2		1	SH1103
	スポーツ心理学		2	1	SH1301
	健康心理学		2	2	SH2301
	スポーツ社会学		2	2	SH2302
	スポーツ生理学	2		2	SH2101
	栄養学概論		2	1	SH1302
	健康レクリエーション論		2	2	SH2303
	医学一般(概論)	2		1	SH1104
	看護学概論		2	3	SH3301
	国際スポーツ健康事情		2	1	SH1303
	スポーツ実技9(バレーボール)		1	2	SH2304
	スポーツ実技10(ソフトボール)		1	2	SH2305
	スポーツ実技11(スキー)		1	1	SH1304
スポーツ実技12(アクアビクス)		1	2	SH2306	
スポーツ実技13(ウォーキング)		1	2	SH2307	
スポーツ実技14(エアロビクスダンス)		1	2	SH2308	
スポーツ実技15(コンディショニング)		1	3	SH3302	
学科基礎科目	生理・解剖学	2		2	SH2102
	バイオメカニクス		2	3	SH3303
	体育・スポーツ経営論		2	2	SH2309
	学校保健Ⅰ(小児保健、精神保健含む)		2	2	SH2310
	発育発達とスポーツ		2	3	SH3304
	地域スポーツ論		2	3	SH3305
	生涯スポーツ論		2	3	SH3306
スポーツ指導論		2	2	SH2311	
学科専門科目	スポーツ実技科目				
	スポーツ実技1(体づくり運動)		1	1	SH1307
	スポーツ実技2(器械運動)		1	1	SH1308
	スポーツ実技3(陸上)		1	1	SH1309
	スポーツ実技4(水泳)		1	1	SH1310
	スポーツ実技5(柔道)		1	3	SH3307
	スポーツ実技6(ダンス)		1	3	SH3308
	スポーツ実技7(サッカー)		1	1	SH1305
	スポーツ実技8(バスケットボール)		1	1	SH1306
	スポーツ実技16(テニス)		1	2	SH2312
	スポーツ実技17(ハンドボール)		1	3	SH3309
	スポーツ実技18(ラグビー)		1	3	SH3310
	レクリエーション・ニュースポーツ		1	2	SH2313
	アダプテッドスポーツ		1	3	SH3311
	スポーツ科学科目				
	コーチング学		2	2	SH2314
	スポーツトレーニング論	2		2	SH2103
	スポーツコンディショニング論		2	2	SH2315
	測定評価		2	2	SH2316
	体カトレーニング論		2	2	SH2317
	スポーツ戦略戦術情報論		2	3	SH3312
	運動プログラム論		2	3	SH3313
	体育・スポーツ政策論		2	2	SH2318
	高齢者運動スポーツ論		2	3	SH3314
	スポーツ指導法Ⅰ		2	3	SH3315
	スポーツ指導法Ⅱ		2	3	SH3316
	スポーツ史		2	3	SH3317
	スポーツ栄養学		2	3	SH3318
	保健体育科教育法1		4	2	SH2319
	保健体育科教育法2		4	3	SH3319

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
		必修	選択			
学科専門科目	健康科学科目					
	健康管理論		2	2	SH2320	
	健康運動教育論	2		2	SH2104	
	衛生学・公衆衛生学		2	2	SH2321	
	保健統計		2	3	SH3320	
	運動障害と予防		2	3	SH3321	
	学校保健Ⅱ(学校安全・救急処置含む)		2	2	SH2322	
	スポーツ薬理学		2	3	SH3322	
	健康レクリエーション実習		2	3	SH3323	
	健康運動実習		1	4	SH4301	
	医学一般(各論)		2	2	SH2323	
	予防医学		2	2	SH2324	
	救急処置の理論と実習		1	2	SH2325	
	健康フィールドワーク		1	3	SH3324	
	生涯発達心理学		2	3	SH3325	
	演習科目					
	専門演習		2		2	SH2105
	研究演習		2		3	SH3101
	卒業研究		2		4	SH4101
	教職実践演習(中・高)			2	4	SH4302

卒業要件

科目大区分	科目小区分	卒業要件	
		必修	選択
NGU教養スタンダード科目	キリスト教	4単位	
	自己理解と自己開発	4単位	4単位以上
	社会的教養		14単位以上
	言語とコミュニケーション	6単位	
	情報理解 教職教養 ^{※1}	2単位	
学部共通科目		10単位	10単位以上
学科基礎科目		2単位	10単位以上
学科専門科目	スポーツ実技科目		6単位以上
	スポーツ科学科目	2単位	10単位以上
	健康科学科目	2単位	10単位以上
	演習科目	6単位	
自由選択科目(フリーゾーン) ^{※2}			22単位以上
卒業要件単位数合計			124単位以上

※1 教職課程者のみ履修可。8単位まで社会的教養の単位とすることができる。

※2 NGU教養スタンダード科目、学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目の領域から22単位以上を取得すること。

各科目区分(領域)の卒業要件単位数を超える単位は「自由選択」単位としてカウントする。また、他学科科目、オープン科目についても同様の扱いとする。

スポーツ健康学部 こどもスポーツ教育学科

教育目標（学則第3条の2より）

こどもスポーツ教育学科は、こどもの成長やスポーツに関する高度な専門知識を基に、心身ともに健やかな幼児期および児童期を保証し、さらにスポーツ習慣の形成による生涯をとおして健康を考え、指導・教育ができ、健やかな社会づくりに貢献できる人材の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

こどもスポーツ教育学科に所属する学生は、卒業後に幼稚園教諭ならびに小学校教諭として、あるいは他の職域などで幼少期の教育やスポーツ活動の推進に貢献することが期待されます。学部および学科のカリキュラムを履修、学修することをおして、以下の能力が獲得できます。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生にはスポーツ健康学部から学士（こどもスポーツ教育）の学位が授与されます。

知識・技能

- 1) こどもの発育・発達に関する基本的知識を修得し、その概要を説明できる。
- 2) こどもの発育・発達と運動との関係を理解し、その概要を説明できる。
- 3) 幼稚園および小学校における教育内容を理解し、その概要を説明できる。
- 4) 幼稚園および小学校において、適切な教科（領域）指導ができる。
- 5) 基本的な運動技術およびそれらの指導技術を実践することができる。

思考力・判断力・表現力

- 1) 社会における幼児教育ならびに初等教育に関する課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。
- 2) 幼稚園ならびに小学校において、対象の特性や諸条件に合わせて適宜教育・指導計画を立案し、実践の場面で臨機応変に改変し対応することができる。
- 3) 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションをおこなうことができる。

主体性・多様性・協働性

- 1) こどもやスポーツならびに教育に関する情報を積極的かつ広範に求める態度を身につけている。
- 2) 課題解決に対して常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。
- 3) 教育・指導の場面においては参加者（受講者など）の立場を考慮することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシーの能力の獲得を目的として、こどもスポーツ教育学科では、以下のカリキュラムを提供します。こどもスポーツ教育学科のカリキュラムは、《NGU 教養スタンダード科目》と《学部共通科目》、《学科基礎科目》および《学科専門科目》によって構成されています。カリキュラムと《専門科目》の特徴は以下のとおりです。

教育内容

- 1) カリキュラムは成熟した市民としての基礎的素養を修得する《NGU 教養スタンダード科目》、スポーツ健康学部の2学科に共通して必要な知識・技能を修得する《学部共通科目》を設置しています。その上に学科に特化した《学科基礎科目》と《学科専門科目》を設定しています。《学科専門科目》は、〈こどもスポーツ・健康科目〉、〈初等教育科目〉、〈幼児教育科目〉そして〈演習科目〉によって構成されています。
- 2) 《学科基礎科目》は、〈こどもスポーツ・健康科目〉、〈初等教育科目〉、〈幼児教育科目〉そして〈演習科目〉によって構成されており、こどもの教育およびこどもの運動に特化した基礎的専門知識の修得をねらいとしています。
- 3) 《学科専門科目》は、〈こどもスポーツ・健康科目〉、〈初等教育科目〉、〈幼児教育科目〉そして〈演習科目〉によって構成されています。

〈こどもスポーツ・健康科目〉においては、こどもの健康や運動・スポーツの他、初等教育・幼児教育に関連する知識の修得をねらいとしています。

〈初等教育科目〉は小学校教諭養成に必要とされる、教科、教職その他関連領域の知識・技能の修得をねらいとしています。

〈幼児教育科目〉は幼稚園教諭養成に必要とされる、教科、教職その他関連領域の知識・技能の修得をねらいとしています。

〈演習科目〉は4年間を通じたゼミナール科目と、教職に就くための資質・能力の総仕上げをする「教職実践演習」が配置されています。

教育方法

- 1) 多人数講義においても ICT を活用した情報提供ツールを積極的に活用し、知的興味・関心を醸成します。
- 2) 講義科目においては、小テストや面接を通して受講生の学習状況や理解度の把握に努めます。
- 3) 演習科目については、担当教員が学生相互の議論を誘導し、集団討議や成果発表を行います。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験等による総合評価（100点満点）により行われます。
- 2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目において必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。
- 3) 学修の成果として GPA の他、卒業論文や論文等で達成度を評価します。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

こどもスポーツ教育学科は、こどもの運動やスポーツに関する素養を備え、こどもの心身ともに健やかな成長に貢献できる、専門知識と実践的な教育力をもった人材を育成することを設置の理念としており、具体的には幼稚園教諭ならびに小学校教諭の養成を大きなねらいとしています。

そこで、スポーツや運動に興味をもつとともに、こどもの教育や指導に関心を持ち、将来幼稚園、小学校あるいは企業や地域社会において、こどもの健全な発育発達に貢献することを望む学生を求めています。

1) 学力試験

こどもの運動や教育に興味を抱き、一定水準以上の学力を有する志願者を求めます。

2) 推薦試験

本学科の学生としてふさわしい人物であるとして、在籍または出身高校が推薦する者で、本学科においても適格であると判定した志願者を求めます。その中には指定するスポーツ種目において高い実績を有する志願者も含まれます。

3) AO 試験

こどもの運動や教育に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力を有した志願者を求めます。

4) その他の試験

こどもの運動や教育に興味を抱き、一定水準以上の学力を有する外国人留学生並びに海外帰国生徒を求めます。

カリキュラムの概要

《学科基礎科目》は「こどもスポーツ教育論」や「発育発達とスポーツ」などの講義および「運動指導法」といった実技科目を含めて、10単位が必修であり、それに加えて選択として3単位以上の修得が必要となっています。

《学科専門科目》のうち必修が72単位となっています。これに加えて選択科目を19単位以上修得することが必要です。

また幼児教育コース（幼稚園教員免許取得カリキュラムのこと、以下同じ）ならびに初等教育コース（小学校教員免許取得カリキュラムのこと、以下同じ）には、それぞれコース指定科目が設定されており、それらを修得する必要があります。

さらに日本体育協会その他の認定する資格を取得する場合は、指定されている科目の履修が必要となります。

カリキュラム上の特色

こどもスポーツ教育学科では、幼稚園教員免許または小学校教員免許を取得するための、幼児教育コースと初等教育コースを設けています。各コースの特徴は以下のとおりです。

- 1) 幼児教育コースは、この幼稚園教育の基本を踏まえ、教職と各種教科に関する知識と教育力を総合的に修得することをねらいとしています。教育課程においては、幼稚園教育の全領域についての指導力、教職、その他関連する知識や実践的指導力を身につけた上で、幼児の健康や運動に関する素養をあわせもった幼稚園教諭の輩出を意図しています。
- 2) 初等教育コースは、この小学校教育の基本を踏まえ、初等教育の諸活動に関する知識と教育力を総合的に修得させることをねらいとしています。教育課程において、小学校教育の全教科などについての指導力、教職、その他関連する知識や実践的指導力を身につけた上で、児童の健康や運動に関する素養をあわせもった小学校教員の輩出を意図しています。

入学後に幼稚園教員免許または小学校教員免許の取得、あるいは両方の免許の取得を各自が判断すれば、それぞれに必要な科目を履修できるように配置されています。

また、教員免許を取得しなくても、規程に従って必要な単位を修得すれば卒業することは可能です。

演習科目について

こどもスポーツ教育学科では、1年次に「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」、2年次に「専門演習」、3年次に「研究演習」さらに4年次に「卒業研究」を配置することにより、4年間一貫した少人数でのゼミナール形式の演習をおこないます。みなさんは、学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上に努めてください。また、4年間一貫のゼミナール教育で、積極的な人間的交流をはかることにより、幅広い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションのパイプを築いてください。ゼミナールは4年間の大学生活の中核であり、学修、研究、指導教員やゼミ生間の交流をとおして大学での学修の集大成となり、将来の人生への基盤となるものです。

<基礎セミナーおよび基礎セミナーⅡ>

1年次配当の「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」は、導入および基礎教育をフォローするための科目です。2・3年次においての専門研究に取り組むための基礎を築きます。

- ① こどもやスポーツや教育に関する文章を読み、その内容を要約、紹介する。
- ② こどもやスポーツや教育に関する問題を提起し、討論する。

③ こどもやスポーツや教育に関する情報を収集し、紹介する。

④ 図書検索や、インターネットを利用した検索を学修する。

①から④の方法をとって、健康に関する知識を高めながら、読解力の育成や文章を要約しまとめる能力の向上をはかります。

専門演習

2年次配当の「専門演習」では、興味のあるこどもやスポーツや教育に関するテーマを基本に、指導教員のもとで、より専門的な学修をおこないます。

① こどもやスポーツや教育に関する図書や文献を読み、その内容について紹介、討論をおこなう。

② こどもやスポーツや教育に関する英語の文章を読み、報告、討論をおこなう。

③ こどもやスポーツや教育に関するテーマの中で、関心のある事象を調べ、報告する。

④ レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

研究演習

3年次配当の「研究演習」では、こどもやスポーツや教育に関する多くの課題の中から、卒業研究テーマを模索しながら自らの関心を絞り込み、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。

① 国内および海外で刊行された専門の文献や著書を読み、その論点の要旨を理解する。

② 専門の文献や著書の読解をとって、その論点を理解し、問題点を探る。

③ 関心のある事象の問題点を整理し、その解決方法を探る。

④ 関心のあるテーマを絞り、研究課題を策定、プレゼンテーションをおこなう。

⑤ プレゼンテーションおよびその討論を基礎にして研究報告書（4,000字以上）の作成をおこなう。

卒業研究をおこなうための基本的研究への取り組み姿勢を養いながら、研究の方法論を身につけてください。

なお、「研究演習」の登録は前年度の秋学期から開始され、選考がおこなわれます。自分の希望する教員のゼミでどのようなことがおこなわれているかを演習概要で確認してください。そして、オフィスアワーを利用するなどしてその教員を訪ね、面談の上で決定すると良いでしょう。

卒業研究

「卒業研究」は、「研究演習」の指導教員のもとで作成した「研究報告書」をもとに、専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文（10,000字以上）にまとめます。

演習科目の履修にあたって

以下の場合には「研究演習」の履修ができませんので、注意してください。

1) 2年次の終了時点で総修得単位数が48単位に満たない者

2) 「基礎セミナー」を修得していない者

また原則として、「研究演習」を修得していない者は、「卒業研究」を履修できません。

履修モデル

こどもスポーツ教育学科 履修モデル (幼稚園免許を主たるコース)

科目区分	必修 選択	1年次				2年次				3年次				4年次				単位 数計	卒業 要件	
		春学期	単位数	秋学期	単位数	春学期	単位数	秋学期	単位数	春学期	単位数	秋学期	単位数	春学期	単位数	秋学期	単位数			
N G U 教養スタンダード	必修	キリスト教概論 基礎セミナー キャリアデザインⅡa 日本語表現 基礎英語Ⅰ 英会話Ⅰ 情報処理基礎	2 2 2 2 1 1 2	キリスト教概論 基礎英語2 英会話2	2 1 1														16	16
	選択	スポーツ初級A 臨床心理学	1 2	基礎セミナーⅡ スポーツ初級B 日本国憲法	2 1 2														8	6
学部共通科目	必修	健康科学概論	2	スポーツ科学概論	2														4	4
	選択			スポーツ心理学 スポーツ概論Ⅰ(スキー)	2 1	緊急処置の理論と実習 スポーツ社会学	1 2	実習学概論	2	スポーツ実技Ⅹ(ソフトボール) (2年次配当)	1	健康レクリエーション論 (2年次配当)	2			スポーツ実技Ⅸ(バレーボール) (2年次配当)	1		12	6
学部基礎科目	必修			こどもスポーツ教育論 養育発達とスポーツ	2 2	初等教育原理 保育管理	2 2			運動指導法Ⅰ (器械運動、ボール運動) 運動指導法Ⅱ(陸上運動、水泳)	1 1								10	10
	選択(注1)	こども健康教育論 児童の体づくりと動きづくり	2 1			こども運動指導論 幼児・小児・ユース・アスリート	1 1	こどもの発達理論	1	障害児の保育と教育 アダプテッドスポーツ	2 1								9	3
学部専門科目	必修	教育心理学Ⅰ 教職実論	2 2	こどもの運動遊び (広域あそびを含む) 保育内容総論	2 2	教育課程の意義と編成 個別児童の理解と対応 体育科教育法(初等) 算数科教育法 国語科教育法 生徒指導教育法 保育内容指導法(環境) 保育内容指導法(健康) 保育内容指導法(表現・音楽)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	こどもと健康 道徳教育の理論と方法 進路指導・生徒指導論 教育方法・技術論 社会科教育法 理科教育法 教育の制度と経営 保育課程論	2 2 2 2 2 2 2 2	初等算数 教育相談の基礎 初等国語(書写を含む) 初等体育 音楽科教育法 図画工作科教育法	2 2 2 2 2 2	初等算数 初等図画工作	2 2						64	66
	選択(注1)			教育心理学Ⅱ	2			習熟生選 生涯スポーツ論	2 2	保育内容演習(書写) 保育内容演習(環境) 保育内容演習(健康) 児童文化 園庭フィールドワーク こどもからの発達発達 こども家庭福祉論 発達障害と特別支援教育 教育実習Ⅰ(幼稚園)	2 ^{2B)} 2 ^{2B)} 2 ^{2B)} 2 1 2 2 2 1	こどものこころの発達 教育・体力測定評価 初級体育 幼稚園実習Ⅱ・実務実習 教育実習Ⅱ(幼稚園)	2 2 2 1 1	総合表現活動 健康レクリエーション実習 (2年次配当) 保育内容演習(表現・音楽) 保育内容演習(表現・造形)	2 2 2 ^{2B)} 2 ^{2B)}	家庭支援論 保育内容演習(人間関係) 保育内容演習(表現・音楽) 保育内容演習(表現・造形)	2 2 ^{2B)} 2 ^{2B)} 2 ^{2B)}		19 (後部科目の選択も含む)	32
演習	必修					専門演習	2			研究演習	1	研究演習	1	卒業研究	1	卒業研究	1		6	6
	選択													教職実技演習(給・幼)	2			2	2	-
	単位数計		24		24		29		29		19		23		9		6	163	136	

本一文字：集中講義のため上限24単位にはカウントされない科目
 注1) 網かけ部分は、卒業要件以上の科目が組み込まれています。興味・関心に応じて取捨選択してください。また、これ以外にも選択科目が用意されています。そちらも検討してください。
 注2) 幼稚園免許に関連して、強化したい科目を中心に実践論を履修してください。

卒業要件

卒業要件単位の修得

スポーツ健康学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（136 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（136 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

科目大区分	科目小区分	卒業要件	
		必修	選択
NGU教養 スタンダード科目	キリスト教	4単位	
	自己理解と自己開発	4単位	
	社会的教養		6単位以上
	言語とコミュニケーション	6単位	
	情報理解	2単位	
	教職教養		
学部共通科目		4単位	6単位以上
学科基礎科目		10単位	3単位以上
学科専門科目	こどもスポーツ・健康科目	4単位	19単位以上
	初等教育科目	46単位	
	幼児教育科目	16単位	
	演習科目	6単位	
卒業要件単位数合計		136単位以上	

こどもスポーツ教育学科 NGU教養スタンダード

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
キリスト教					
キリスト教概説	2		1	AV1101	
キリスト教学	2		1	AV1102	
自己理解と自己開発					
基礎セミナー	2		1	AW1101	
基礎セミナーⅡ		2	1	AW1305	
キャリアデザイン1a	2		1	AW1102	
キャリアデザイン1b		2	1	AW1302	
キャリアデザイン2a		2	2	AW2301	
キャリアデザイン2b		2	2	AW2302	
キャリアデザイン3a		2	3	AW3301	
キャリアデザイン3b		2	3	AW3302	
ボランティア学		2	1	AW1303	
ボランティア演習		2	1	AW1304	
インターンシップ		2	1	AW1306	
社会的教養					
人間理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	心身関係論		2	1	AX1303
	心理学概論		2	1	AX1304
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1305
	臨床心理学		2	1	AX1306
	倫理学		2	1	AX1307
社会理解	社会学入門		2	1	AX1308
	宗教社会学		2	1	AX1309
	日本国憲法		2	1	AX1310
	現代社会と法律		2	1	AX1311
	暮らしと法律		2	1	AX1312
	現代社会と経済		2	1	AX1313
	会計入門		2	1	AX1314
現代社会と福祉		2	1	AX1315	
自然理解	数学		2	1	AX1316
	実用統計学		2	1	AX1317
	化学		2	1	AX1318
	生物学		2	1	AX1319
	地球科学概論		2	1	AX1320
	地球物理学概論		2	1	AX1321
	人類学		2	1	AX1322
	物理学		2	1	AX1323
生命倫理		2	1	AX1325	

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
	必修	選択			
歴史文化理解	日本史		2	1	AX1326
	日本文化史		2	1	AX1327
	文化人類学入門		2	1	AX1328
	陶芸論		2	1	AX1329
	陶芸演習		2	1	AX1330
環境理解	環境科学		2	1	AX1331
	生態学		2	1	AX1332
	地域生態論		2	1	AX1333
	地球環境学		2	1	AX1334
身体理解	スポーツ初級A		1	1	AX1335
	スポーツ初級B		1	1	AX1336
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
	スポーツ上級A		1	3	AX3301
	スポーツ上級B		1	3	AX3302
地域理解	地域商業まちづくり学		2	1	AX1341
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1342
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1343
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1344
	歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1345
	減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1346
	上級まちづくり演習		2	2	AX2304
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2		1	AJ1101
日本語表現上級			2	1	AJ1301
基礎英語1		1		1	AJ1102
基礎英語2		1		1	AJ1103
英会話1		1		1	AJ1104
英会話2		1		1	AJ1105
実用英語演習1			1	2	AJ2301
実用英語演習2			1	2	AJ2302
情報英語演習1			1	2	AJ2303
情報英語演習2			1	2	AJ2304
手話			1	1	AJ1302
手話上級			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2		1	AZ1101
教職教養					
教育原理			2	1	BQ1402
特別活動論			2	2	BQ2401
道徳教育論			2	2	BQ2403
生徒・進路指導論			2	2	BQ2404

こどもスポーツ教育学科 専門科目

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
学部共通科目	健康科学概論	2		1	SM1101
	スポーツ科学概論	2		1	SM1102
	スポーツ原理		2	2	SM2301
	スポーツ心理学		2	1	SM1301
	健康心理学		2	3	SM3301
	スポーツ社会学		2	2	SM2302
	スポーツ生理学		2	2	SM2303
	栄養学概論		2	2	SM2304
	健康レクリエーション論		2	2	SM2305
	医学一般(概論)		2	2	SM2306
	看護学概論		2	3	SM3302
	国際スポーツ健康事情		2	1	SM1302
	スポーツ実技9(バレーボール)		1	2	SM2307
	スポーツ実技10(ソフトボール)		1	2	SM2308
	スポーツ実技11(スキー)		1	1	SM1303
スポーツ実技12(アクアビクス)		1	2	SM2309	
スポーツ実技13(ウォーキング)		1	2	SM2310	
スポーツ実技14(エアロビクスダンス)		1	2	SM2311	
スポーツ実技15(コンディショニング)		1	3	SM3303	
学科基礎科目	こどもスポーツ教育論	2		1	SM1103
	こども健康教育論		2	1	SM1304
	発育発達とスポーツ	2		1	SM1104
	生涯発達心理学		2	2	SM2312
	地域スポーツ論		2	2	SM2313
	初等教育原理	2		2	SM2101
	保育原理	2		2	SM2102
	障害児の保育と教育		2	3	SM3304
	運動指導法Ⅰ(器械運動、ボール運動)	1		3	SM3101
	運動指導法Ⅱ(陸上運動、水泳)	1		3	SM3102
	児童の体づくりと動きづくり		1	1	SM1305
	こども運動指導論		2	2	SM2314
	こどもの表現運動		1	2	SM2315
	レクリエーション・ニュースポーツ		1	2	SM2316
	アダプテッドスポーツ		1	3	SM3305
こどもスポーツ・健康科目					
こどものからだの発育発達		2	3	SM3306	
こどものこころの発達		2	3	SM3307	
こどもと健康	2		2	SM2103	
こどもの生活と健康行動		2	3	SM3308	
こどもの運動遊び(伝承遊びを含む)	2		1	SM1105	
こどもの食と栄養		2	3	SM3309	
こどもと地域社会		2	2	SM2317	
健康フィールドワーク	1		3	SM3310	
教育・体力測定評価	2		3	SM3311	
学校保健・安全論	2		3	SM3312	
生涯スポーツ論	2		2	SM2318	
健康レクリエーション実習	2		3	SM3313	
こども家庭福祉論	2		3	SM3314	
障害者福祉論	2		3	SM3315	
発達障害と特別支援教育	2		3	SM3316	
こどもの医学	2		3	SM3317	
救急処置の理論と実習		1	2	SM2319	
初等教育科目					
体育科教育法(初等)	2		2	SM2104	
体育科教育実践論		2	4	SM4301	
国語科教育法	2		2	SM2105	
国語科教育実践論		2	4	SM4302	
算数科教育法	2		2	SM2106	
算数科教育実践論		2	4	SM4303	
理科教育法	2		2	SM2107	
理科教育実践論		2	4	SM4304	
社会科教育法	2		2	SM2108	
社会科教育実践論		2	4	SM4305	
音楽科教育法	2		3	SM3103	
図画工作科教育法	2		3	SM3104	
家庭科教育法	2		3	SM3105	
生活科教育法	2		2	SM2109	
初等体育	2		3	SM3106	
児童体育		2	3	SM3318	

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
		必修	選択			
学科専門科目	初等国語(書写を含む)	2		3	SM3107	
	初等算数	2		3	SM3108	
	初等算数(演習)		2	4	SM4306	
	初等理科		2	3	SM3319	
	初等社会		2	3	SM3320	
	初等生活		2	2	SM2320	
	初等音楽	2		4	SM4101	
	初等音楽(器楽)		2	4	SM4307	
	初等図画工作	2		4	SM4102	
	初等家庭科		2	4	SM4308	
	教育課程の意義と編成	2		2	SM2110	
	特別活動の理論と方法	2		2	SM2111	
	道徳教育の理論と方法	2		2	SM2112	
	進路指導・生徒指導論	2		2	SM2113	
	教職原論	2		1	SM1106	
	教育心理学1	2		1	SM1107	
	教育心理学2		2	1	SM1306	
	教育の制度と経営	2		2	SM2114	
	教育方法・技術論	2		2	SM2115	
	教育相談の基礎	2		3	SM3109	
	こどもの外国語活動指導法		2	3	SM3321	
	学級経営論		2	3	SM3322	
	特別支援教育論		2	4	SM4309	
	小学校教育実習事前・事後指導		1	4	SM4310	
	教育実習1(小学校)		1	3	SM3323	
	教育実習2(小学校)		3	4	SM4311	
	幼児教育科目					
	保育内容指導法(言葉)	2		2	SM2116	
	保育内容演習(言葉)		2	3	SM3324	
	保育内容指導法(環境)	2		2	SM2117	
	保育内容演習(環境)		2	3	SM3325	
	保育内容指導法(健康)	2		2	SM2118	
	保育内容演習(健康)		2	3	SM3326	
	保育内容指導法(人間関係)	2		2	SM2119	
	保育内容演習(人間関係)		2	3	SM3327	
	保育内容指導法(表現・音楽)	2		2	SM2120	
	保育内容演習(表現・音楽)		2	3	SM3328	
	保育内容指導法(表現・造形)	2		2	SM2121	
	保育内容演習(表現・造形)		2	3	SM3329	
保育内容総論	2		1	SM1108		
保育課程論	2		2	SM2122		
幼児体育		2	3	SM3330		
児童文化		2	3	SM3331		
家庭支援論		2	3	SM3332		
総合表現活動		2	4	SM4312		
幼稚園実習事前・事後指導		1	3	SM3333		
教育実習1(幼稚園)		1	3	SM3334		
教育実習2(幼稚園)		3	3	SM3335		
演習科目						
教職実践演習(幼・小)		2	4	SM4313		
専門演習	2		2	SM2123		
研究演習	2		3	SM3110		
卒業研究	2		4	SM4103		

卒業要件

科目大区分	科目小区分	卒業要件	
		必修	選択
NGJ教養 スタンダード科目	キリスト教	4単位	
	自己理解と自己開発	4単位	
	社会的教養		6単位以上
	言語とコミュニケーション	6単位	
	情報理解	2単位	
教職教養			
学部共通科目		4単位	6単位以上
学科基礎科目		10単位	3単位以上
学科専門科目	こどもスポーツ・健康科目	4単位	
	初等教育科目	46単位	
	幼児教育科目	16単位	
	演習科目	6単位	
卒業要件単位数合計		136単位以上	

オープン科目（こどもスポーツ教育学科、リハビリテーション学部を除く）

現代社会の諸問題はさまざまな学問分野が絡み合っており、学部の枠を越えた幅広い学際的な知識と能力が必要です。そこで、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を育成するため、他学部が開講する《専門科目》を卒業要件単位として履修できるオープン科目制度を設けています。

多くの学部で専門教育科目の一部をオープン科目として他学部公開するとともに、履修したオープン科目の単位を卒業所要単位として認定しています。オープン科目を学ぶことにより、学びの視野を広げ、専門分野の知識をいっそう深めることができます。

なお、オープン科目を履修する場合は、自分が所属する学部において必要な科目履修に支障をきたさないよう、授業時間割、履修上限単位数などに十分な注意を払うようにしてください。

オープン科目対象科目

- オープン科目は、各学部で指定された科目（開放科目）にかぎられます。
- オープン科目は、入学した年度によって異なります。履修を希望する場合は、該当する入学年度の「オープン科目（他学部履修科目）一覧」（毎年3月中旬頃、CCS 掲示板上に掲示します）を確認の上、CCS で該当する科目のシラバスを照会し、担当者、曜日・時限、講義内容などを確認してください。また、授業教室については、授業を公開する学部の時間割を参照してください。
- 自分の履修するカリキュラムにある科目と同一名称の科目がオープン科目にある場合、その科目は履修することはできません。
- オープン科目は年度によって変更となる場合があります。

※ なお、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科・リハビリテーション学部はオープン科目の対象としていません。

履修可能学部・履修条件・履修可能単位数

学部	履修条件	履修可能単位数
経済学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること ・2年次：30単位以上、3年次：60単位以上、4年次90単位以上を修得していること 	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
現代社会学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
商学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	制限なし
法学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること 	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
外国語学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	半期2単位、年間4単位まで
国際文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること 	半期2科目まで

単位認定

《自由選択科目（フリーゾーン）》の科目として認定します。

履修方法

オープン科目の履修希望者は以下の手順で申し込みをおこなってください。

- ① 時間割開示時に、オープン科目一覧表で履修希望科目を決定する。
- ② 教務課窓口または瀬戸キャンパス総合事務部にて、「オープン科目履修願」を記入し、提出する（オープン科目については CCS から直接履修登録できません）。

なお、受付期間はオープン科目一覧表とともに CCS に掲示します。受付期間以外は一切受けつけできません。

- ③ 受付期間終了後、履修希望人数を集計、調整をおこない履修登録画面へ反映させます。

注意事項

- 履修を検討したい科目のシラバスを必ず読んでから受講してください。
- オープン科目の履修は Semester ごとの履修制限単位数の規則に従います。
- オープン科目対象科目の開講曜日時限は、科目を提供している学部の時間割にて確認してください。
- すべての科目に受講者数の定員を設けています。履修は、科目を提供している学部の学生を優先しますので、必ずしも履修願に記入した科目すべてが履修できるとはかぎりません。
- オープン科目の履修の取り消し、変更は一切できません。

他大学との単位互換

愛知学長懇話会の単位互換

愛知学長懇話会には、愛知県内すべての4年制大学が加盟しています。愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生は、他の大学で開講されるさまざまな科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度です。愛知県内の大学に在学するメリットのひとつとしてぜひ活用してください。

なお、単位互換向けに開放される科目の受講料は無料ですが、科目によっては実験・実習・研修などの実費が必要となる場合があります。詳細は、愛知学長懇話会のホームページ（<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/syllabustop>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	<ul style="list-style-type: none"> 各学部2年生以上 (以下、外国語学部で追加する資格) 履修時に、学部卒業要件における修得単位数の合計が40単位以上 上記修得単位のGPAがおおむね2.5以上
履修期間	1 Semesterまたは1学年とし、再応募することができる。
履修可能単位数	1 Semesterあたり6単位、もしくは1学年あたり12単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	学則第17条の定めにより他の大学における授業科目の履修として、60単位を超えない範囲で単位を認定する。

※ 3月頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

大学連携による「知域」拡大プロジェクトの単位互換

北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトは、加盟する6大学の開放科目を、eラーニングシステム「TIES(タイズ)」を利用して受講し、大学の単位として認められる制度です。詳細は、北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトのホームページ（http://www.tiesnet.jp/link/renkei_gp）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部2年生以上
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1年度につき10単位以内とする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。

※ 4月上旬頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムの単位互換

本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に取り組んでいます。（P59 参照）その一環として「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に参加しており、参加大学間の相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって、教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的として、単位互換協定を結んでいます。

＜参加大学＞岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学

主に岐阜県を題材とした科目が中心となりますが、各大学の個性を活かした実践的な学びを通じて、社会人基礎力を向上させることができます。

詳細は、本学社会連携センターのホームページ（<https://www.ngu.jp/collaboration/>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部1年生以上。ただし1年生は秋学期のみとする。
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1セメスターあたり4単位、もしくは1学年あたり8単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。